

感染症発生動向調査委員会報告 7月

《今月のトピックス》

- 成人男性を中心に風しんが流行しています。
- ヘルパンギーナの報告数が増加しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。
- 夏休みの海外旅行先における感染症に注意が必要です。

全数把握疾患

<腸管出血性大腸菌感染症>

7件(O26 VT1 4件、O157 VT2 2件、O157 VT1VT2 1件)の報告がありました。このうち、O26 VT1の3件は同一家族で、原因は現在調査中です。他の事例については、明らかな共通食や同じ店舗の利用などは現在のところ不明です。本疾患は例年夏季に感染者数のピークを迎えるので今後の注意がひきつづき必要です。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

<デング熱>

1件の報告がありました。渡航先(タイ)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。

<マラリア>

1件の熱帯熱マラリアの報告がありました。渡航先(ガーナ)での感染が推定されています。

海外での感染症予防情報掲載ホームページ

これから海外旅行に出かける人が増えることが予想され、感染症に注意が必要です。

○夏休みに海外へ渡航される皆さまへ(厚生労働省検疫所)

<http://www.forth.go.jp/news/2012/07091539.html>

○2012年夏休み期間中における海外での感染症予防について(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel/2012summer.html

<レジオネラ>

肺炎型2件の報告がありました。どちらも70歳以上の高齢者で、尿中抗原陽性のため診断されましたが、感染の原因は不明でした。

<アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症1件の報告がありました。国内での感染が推定されていますが、感染経路は不明です。

<後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

AIDS 1件、無症候期1件の報告がありました。AIDSの症例では、同性間性的接触による感染が推定されており、感染地域は不明です。無症候期の症例では、異性間性的接触による感染が推定されており、イ

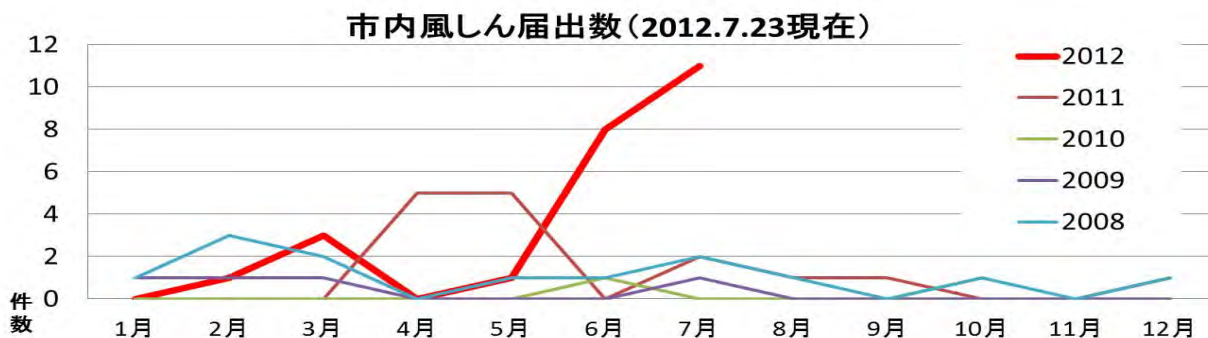
インドネシアでの感染が推定されています。

<バンコマイシン耐性腸球菌感染症>

1件のVanB型の報告がありました。現在、感染経路等を調査中です。

<風しん>

11件の報告がありました。6月以降、市内の届出が急増しており、既に昨年1年間の約1.5倍(24件)となっています。流行の中心は予防接種歴の無い、あるいは不明の30～40代の男性ですが、10～20代でも報告されています。風しんの免疫を持たない女性が妊娠中(特に妊娠初期)に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。流行を抑えるためには、女性だけでなく、男性の予防接種も重要です。



◆横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinj/>

<麻しん>

5件(40代2件、20代1件、幼児2件)の報告がありました。幼児2件では、どちらも予防接種でMR1期接種済みでしたが、他は予防接種歴が無いか、不明でした。全例で感染経路は不明で、周囲に他の感染者はいませんでした。麻しんの届出後に風しんの診断に差し替えになるケースもあります。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。

定点把握疾患

平成24年6月25日から平成24年7月22日まで(平成24年第26週から平成24年第29週まで。ただし、性感染症については平成24年6月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成24年 週一月日対照表

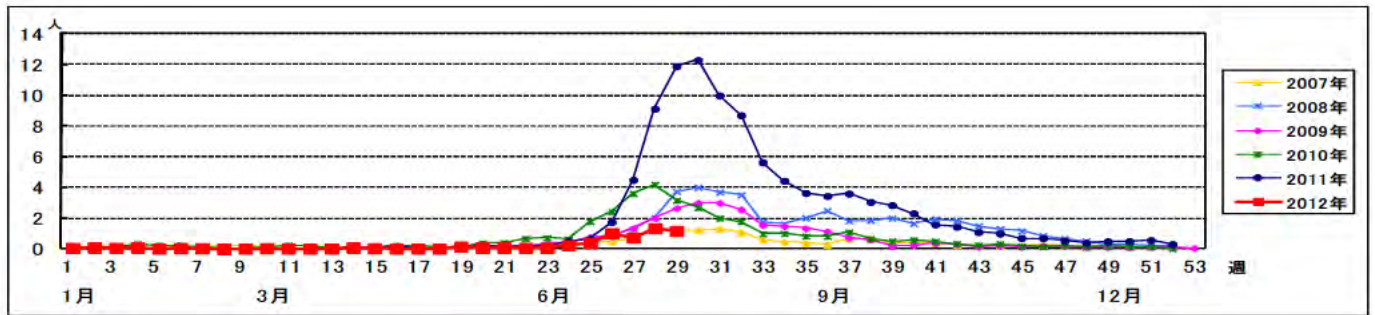
| | |
|------|------------|
| 第26週 | 6月25日～7月1日 |
| 第27週 | 7月2日～8日 |
| 第28週 | 7月9日～15日 |
| 第29週 | 7月16日～22日 |

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

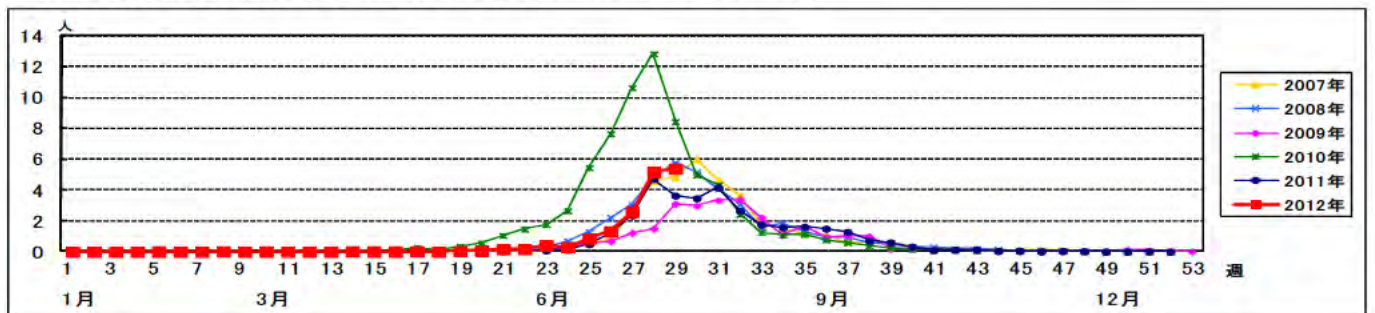
<手足口病>

市全体で第29週1.18とやや増加しています。泉区9.00瀬谷区2.00で警報レベルとなっています。例年夏季に増加する疾患ですが、現在のところ、例年に比べ少ない報告となっています。



<ヘルパンギーナ>

市全体で第29週5.38と増加しています。神奈川区11.80、金沢区8.00、緑区12.00、青葉区6.14、栄区8.00、泉区7.00、瀬谷区13.50と7区で警報レベルとなっています。



<性感染症>

6月は、性器クラミジア感染症は男性が15件、女性が11件でした。性器ヘルペス感染症は男性が8件、女性が14件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が11件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>

マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60～1.40(例年定点あたり0.2～0.6程度で推移)と増加しました。最近では、第26週0.83、27週0.95、28週0.91、29週0.84と落ち着いてきたものの、例年を上回る状態が持続しています。横浜市でも第26週1.67、27週1.00、28週1.50、29週1.50と、前シーズンの第26週0.66、27週0.33、28週0.33、29週0.67をやや上回っています。第28週に無菌性髄膜炎(30代女性、病原体は未検出)が1件報告されました。第29週には細菌性髄膜炎(40代女性、髄液から原因菌検出されませんでした。が、頸部硬直等の神経学的所見、CRPおよびWBC上昇および髄液の細胞数上昇などの所見より細菌性髄膜炎との診断となりました。)が1件報告されました。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

6月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件で、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

7月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点33件(鼻咽頭ぬぐい液28件、ふん便5件)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点18件(鼻咽頭ぬぐい液11件、髄液6件、血清1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎20人、ヘルパンギーナ6人、胃腸炎5人、発疹症1人、手足口病1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点はインフルエンザ5人、脳炎脳症疑い3人、気道炎2人、無菌性髄膜炎2人、手足口病1人でした。

8月10日現在、小児科定点の気道炎患者1人からアデノウイルス4型、基幹定点のインフルエンザ患者5人からインフルエンザウイルスAH3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の気道炎患者2人からコクサッキーウイルスA(以下CA)2型、気道炎患者7人とヘルパンギーナ患者2人と手足口病患者1人の計10人からCA4型、ヘルパンギーナ患者3人からCA5型、発疹患者1人からCA9型、胃腸炎患者1人からサポウイルス、基幹定点の無菌性髄膜炎遺伝子患者1人からエコーウイルス7型が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

7月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から菌株受付が11件、定点以外の医療機関等からは14件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2、O157:H- VT1&2、O26:H11 VT1)、カンピロバクターが検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から4件で、A群溶血性レンサ球菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(6月)

感染性胃腸炎

| 検査年月 定点の区別 件数 | 7月 | | | 2012年1月～7月 | | |
|---------------------|-----|----|------|------------|----|------|
| | 小児科 | 基幹 | その他* | 小児科 | 基幹 | その他* |
| 菌種名 | | | | | | |
| 赤痢菌 | | | | | | 2 |
| 腸管病原性大腸菌 | | | | | 2 | |
| 腸管出血性大腸菌 | | | 7 | | 2 | 21 |
| 腸管毒素原性大腸菌 | | | | | 2 | |
| チフス菌 | | | | | 1 | |
| パラチフスA菌 | | | | | 2 | |
| サルモネラ | | | | | 20 | 3 |
| カンピロバクター | | | 5 | | | 7 |
| コレラ菌 | | | | | | 2 |
| 不検出 | 0 | 11 | 2 | 0 | 87 | 13 |

その他の感染症

| 検査年月 定点の区別 件数 | 7月 | | | 2012年1月～7月 | | |
|-------------------------------|-----|----|------|------------|----|------|
| | 小児科 | 基幹 | その他* | 小児科 | 基幹 | その他* |
| 菌種名 | | | | | | |
| A群溶血性レンサ球菌 | | | | 9 | | |
| T1 | | | | | | |
| T6 | 3 | | | 9 | | |
| T4 | | | | 2 | | |
| T12 | | | | 10 | | |
| T25 | | | | 1 | | |
| T28 | | | | 3 | | |
| T B3264 | | | | 3 | | |
| B群溶血性レンサ球菌 | | | 1 | | | 14 |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 | | | | | 4 | |
| バンコマイシン耐性腸球菌 | | | 1 | | 1 | 3 |
| <i>Legionella pneumophila</i> | | | | | | 1 |
| インフルエンザ菌 | | | | 6 | | 2 |
| 肺炎球菌 | | | | 2 | | |
| 黄色ブドウ球菌 | | | | 1 | | |
| 破傷風菌 | | | | | 1 | |
| 結核菌 | | | | | | 3 |
| <i>Mycobacterium avium</i> | | | | | | 1 |
| 不検出 | 1 | 2 | 4 | 16 | 8 | 32 |

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】